

生命の星・地球博物館のボランティア

田中徳久 (当館学芸員)

はじめに

昨今、各方面でのボランティアの活動がクローズアップされ、その導入や条件整備の重要性が言われています。特に、阪神大震災でのボランティアの活躍とその果たした役割は、その傾向に一層拍車をかけたようです。しかし、現在の行政的な枠組みの中での議論では、“ボランティア”の本当の意味について、あまり理解されず、その活動のみが取り沙汰されているように思います。

“ボランティア”という言葉の意味

それでは、“ボランティア”の本当の意味とは何でしょうか。“ボランティア”という言葉の意味を国語辞典などで調べると「自分から進んで社会事業などに奉仕する人」と解説されています。みなさんも、日本語の“ボランティア”という言葉から、“奉仕活動”をイメージするのではないのでしょうか。しかし、“ボランティア”のもとになった英語の“volunteer”を英和辞典で調べると、少しニュアンスが異なります。名詞として「志願兵」、動詞として「進んで～する」、形容詞として「自発的な」などの意味が記載されています。英語の“volunteer”には、“奉仕”をイメージさせるような意味はまったくないのです。言語学的には“ボランティア”＝“volunteer”である必要はないのかもしれませんが、“ボランティア”という言葉自体、英語の“volunteer”に由来するものである以上、その意味は同じであるべきです。日本語で、“ボランティア”という言葉が使われだした経緯は分かりませんが、どこかで意味が差し替わってしまったのだと思われます。

博物館のボランティアの考え方

生命の星・地球博物館で考えるボランティアは、あくまでも、“volunteer”です。もちろん、前述の阪神大震災で重要な役割を果たしたボランティアの人たちを否定するつもりはありません。彼らこそ行政的な対応が遅れがちなか中、真の“volunteer”として活動を実践した人たちだからです。また、

博物館にも、神奈川県立博物館時代から、いくつかの分野で“volunteer”として活動している方たちが存在することを忘れることはできません。

ところで、このようなボランティアの考え方は、神奈川県立の青年の家(伊勢原・津久井・臨海・中央の各青年の家)で、その基本理念に据えられているものです。そこでは、“ボランティア”＝「自ら～する」人という考えに基づき、研修プログラムが生まれ、各種活動が行われています。博物館のボランティアについても、この考え方をもとに、「自ら～する」人たちの集まりでありたいと考えます。

博物館では、ボランティアの人たちは、あくまでも自主的に、その生涯学習の一環として活動しています。博物館は、単にその活動の場を提供しているに過ぎないのです。もちろん、博物館では、ボランティアの人たちの活動を、博物館の学習支援事業の一つに位置づけていて、その活動において、学芸員の知識や、博物館の資料、さらにはその展示活動などを活用することができます。しかし、そこには自主的な学習意欲が必要不可欠で、博物館に“奉仕”していると考えている方は皆無ですし、また、そうでないと、活動自体が長続きしないと思います。

ボランティア体験講座

博物館では、博物館でボランティアとして活動したいと思っている人たちに、その活動を体験してもらう機会として、ボランティア体験講座を開催しています。そこでは、博物館でどんな活動ができるのかを知ってもらうことを主目的に研修プログラムを組み立てています。平成7年度の講座では、初



ボランティア体験講座 (講義)

日に県立中央青年の家の野村幸雄次長にご講演を頂き、ワークシートづくりや標本の作成・整理等の実習を行いました。企画した担当者が驚くほど申込者が多く、ほとんど欠席者のいない出席率の高さで、博物館を活動の場としてボランティア活動しようとする人たちの高い意欲を窺い知ることができました。なお、平成8年度の講座は秋以降に実施する予定です。興味のある方は是非、お申し込み下さい。



ボランティア体験講座 (実習)

ボランティア・データベース

博物館でボランティアとして活動するためには、研修修了後、博物館ボランティア・データベースに登録する必要があります。その際、ボランティアの人たちの活動希望分野や内容により、担当する職員を決定します。登録が終了すれば、後は、担当となった職員と日程の調整や活動の内容を打ち合わせつつ、実際の活動を進めることとなります。ただし、残念ながら、現状では、博物館で可能なボランティア活動は、職員の対応可能な分野や内容に限られます。

博物館ボランティアの今後

博物館には県立博物館時代から“volunteer”として活動している方たちが存在していましたが、生命の星・地球博物館のボランティア育成事業や受入システム自体はスタートしたばかりです。今後、このシステムをより良い形に改善する必要もあると思われます。さらに、ボランティアの人たちの活動内容に対する要望にも応えていく必要があると思われます。

これからも、博物館のボランティア事業を応援頂ければ幸いです。